

北川議員

学校施設の非構造部材の耐震強化の取り組みについて

問東日本大震災では、学校施設の非構造部材（天井材・照明器具・窓ガラス等）が崩壊し、児童生徒が大怪我をする事故が起きた。当市においても、児童生徒や市民の命を守る防災拠点であり避難所となる学校施設は、構造体と共に非構造部材の耐震化も早急に実施していく必要がある。そこで非構造部材の耐震点検はどのようにし、耐震工事はいつ実施するのかわう。

答主な非構造部材の点検・診断は、既に完了している耐震診断で報告されており、その報告書を基に詳細な耐震計画・詳細設計を作成し、耐震工事に取り組んでいる。当市では、27年度までに小中学校の耐震化100%を計画しており、併せて非構造部材の耐震化も進めていく。

人工内耳装着者への支援について

問側頭部に聴覚補助器具を埋め込むことで“聞こえ”を取り戻す人工内耳は、体内に埋め込まれた電波

その他の質問
・通学路の安全について
・第6次福井県保健医療計画の当市への影響について

の受信機と電極、体外のマイクロホン、スピーチプロセッサからなる。人工内耳を埋め込む手術費用（約400万円）は健康保険が適用されているが、数年で交換が必要となるスピーチプロセッサ（約120万円）等は、全額利用者が支払うため経済的負担は大きい。そこで、他市でも実施しているスピーチプロセッサ等の買い替えに助成のお考えはないか。

答人工内耳の装置に関して、修理不可の場合は、健康保険適用となり最終的には自己負担はほとんどないと考える。予備や装置の改良に伴う買い替えの助成は現在、考えていない。今後は、他の手法での助成ができないか、広く研究していきたい。



非構造部材の耐震工事(南小学校)

乾議員

福井社会保険病院医師確保支援について

問医師不足の影響が福井社会保険病院において非常に深刻。通院される方々から医師不足からくる困惑と不満が広がっている。眼科は週に1回で、しかも午前中のみ。産婦人科は週2回。内科は先日、先生がお辞めになり1名欠員のまま。病院側から通院される方々へ、他の病院へ行くことを勧められる。小児科も先生お一人のため、週末の急患の受け入れは難しく、親が週末に小児急患の診療を要請すると、他の病院へ行くことを勧められる。病院側も医師確保に随分と努力され、ご苦労なされておられると思う。ここは、行政として、市民の安心・安全を守る意味からも、病院と一体となって医師確保に全面的に努力をすべき。また、週末の小児急患受け入れの実現に早急に努力すべし。如何か。

答医師を確保するために、県に対して積極的に要望活動を行ってきた。県は医師確保の取り組みとして、平成21年から医師確保就学資金の支給や平成23年からは研修医・医師のUターン・Iターン支援事業を行っており、今後も県に要望

その他の質問
・通学路の安全再点検について
・今夏の節電について
・高齢者対策の充実について

していく。
福井社会保険病院の公的存続が決定したが、法律で定める地域医療機能推進機構として新たな公的病院としてスタートするのは2年後の予定である。現在の社会保険病院自らの努力はもちろんだが、いま地域として社会保険病院の活用と支援が最も必要な時と考える。



社会保険病院